

2010年7月8日

電通大・NICT・玉川大合同チーム"eR@sers" RoboCup2010 世界大会優勝

6月19日から6月25日までシンガポールで開催された「ロボカップ世界大会」で電気通信大学、NICT・玉川大学の合同チームである「eR@sers」が優勝を果たしました。ロボカップは、人工知能を搭載したロボットが2050年のサッカー・ワールドカップ優勝チームに勝つことを目標としたプロジェクトであり、現在ではサッカーだけでなく、レスキューロボットや家庭用ロボットにも広がりを見せています。

今回 eR@sers が優勝したのは、家庭用ロボットの技術を競う「@ホームリーグ」で、ロボットがリビングルームやキッチンで物探しなどの様々な種目を行い、その性能を競うものです。今年、世界各国（米国、ドイツ、スイス、フランス、オランダ、ポルトガル、オーストラリア、イラン、中国、メキシコ、チリ、シンガポール、台湾、タイ、日本）から集まった計24チームによって競われました。



図1 @ホームリーグ参加者（左上）、電通大チームメンバー（右上）、表彰式にて（下）

eR@sers は24チーム中12チームに絞られる1st ステージを1位で通過し、その後2nd ステージでも他のチームを圧倒し、1位でファイナルに進出しました。ファイナルでは、「On-site learning」をテーマに、行動の見まね学習や、物体カテゴリの学習・認識といった非常に高度なデモを行い、最終的に優勝を果たしました。

（結果は、http://www.robocup2010.org/competition_League.php?c=3&l=11&t=results を参照）

eR@sers は、一昨年の世界大会で優勝、昨年の世界大会では準優勝し、5月のジャパンオープンで

は3連覇を達成していたため、世界大会での活躍が期待されていましたが、今回の優勝で、出場したロボット“DiGORO”（だいがろう）に搭載された技術が非常に高度であり、その実力が世界的な舞台上で証明されたと言えます。DiGOROは電気通信大学長井研究室で開発されたヒューマノイドロボットで、今大会全ての競技を行いました。中でも、本物の綿菓子を作り審査員にふるまったり、実際のお店（トイザラス）での買い物をするなど、実際に役立つことを目指した新しいチャレンジを行い、高く評価されました。

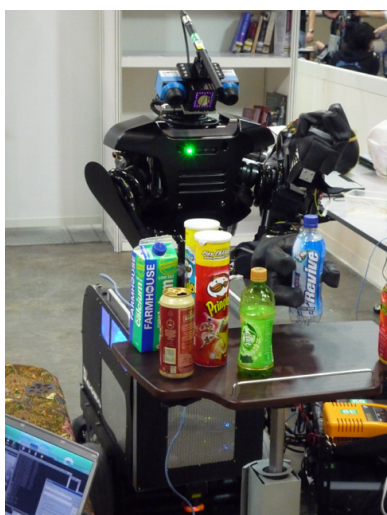


図2 出場したロボット DiGORO (左)、トイザラスでのショッピングタスク (右)



図3 DiGORO と B-it bots(ドイツ)の Johnny (左)、登録書類を手渡す DiGORO (右)

ロボットのデモなどは、リクエストに応じて行いますので下記へお問い合わせください。

取材に関するお問い合わせ先

電気通信大学大学院情報理工学研究科
准教授 長井隆行

〒182 - 8585

東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

TEL/FAX : 042-443-5203

E-mail : tnagai@ee.uec.ac.jp